

2027 年度

社会福祉学科

総合型選抜入試課題

次の課題 A～C から 1 つ を選び、800 字以内で述べてください。

注意事項

○手書きの場合

指定された「課題レポート記入用紙」に記入してください。

○パソコンで作成する場合

Windows で扱える文書ファイル（Word 等）で作成し、A 4 縦用紙に横書きする。ただし、行・文字数、間隔等の指定は特にありません。

※希望学科、選択した記号（A～C）、氏名の記入を忘れないでください

課題 A

「危機感を高め高齢化に克つ日本を 海図なき時代に」

2026 年の日本は世界に最も重要なのは年齢による線引きをやめることだ。高齢者を一律に弱者として扱うのはやめ、能力のある人には社会を支える側に回ってもらう必要がある。

若年層が減る中で弱者を支える力を確保するには、この原則を追求すべきだが、政府や与野党の動きはあまりに鈍い。負担や給付の改革はその典型だ。

介護保険の自己負担には現役並み所得がある人に 3 割、所得が一定以上の人に 2 割を求める仕組みがあるが、9 割超の人には最も軽い 1 割負担が適用されている。

2 割負担の対象者は介護サービス利用者の約 4%と、医療保険の約 20%と比べても少ない。対象者を広げる議論は 22 年度から続いてきたが、高市早苗政権は 25 年末、結論を 26 年度に先送例のない高齢化に危機感を高めて向き合う必要がある。人口の 6 人に 1 人が医療、介護のニーズが大きい 75 歳以上の後期高齢者となる。持続可能な「支え方」を見極め、改革を急がねばならない。

75 歳以上の人口は 25 年 12 月時点で 2135 万人となり、20 年比で 263 万人増えた。大阪市の人口に近い規模の後期高齢者が過去 5 年間で増えた計算になる。

年齢での線引きやめよ

国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口によると 75 歳以上人口は 27 年に 2200 万人台に乗った後は横ばい圏で推移するが、若年層の減少で総人口に占める割合はしだいに上昇していく。42 年には人口の 2 割を突破する。

国連は 65 歳以上の人口比が 7%を超えた国・地域を高齢化社会、14%超で高齢社会、21%超で超高齢社会と定義している。高齢化率 29%の日本はこれらをはるかにしのぎ、「重老齢社会」とも呼ぶべき社会構造になっている。

人口の変化に押しつぶされずに活力ある日本を後世につなぐために、旧来の考え方にとらわれずに社会の再構築を急ぎたい。

最も重要なのは年齢による線引きをやめることだ。高齢者を一律に弱者として扱うのはやめ、能力のある人には社会を支える側に回ってもらう必要がある。

若年層が減る中で弱者を支える力を確保するには、この原則を追求すべきだが、政府や与野党の動きはあまりに鈍い。負担や給付の改革はその典型だ。

介護保険の自己負担には現役並み所得がある人に 3 割、所得が一定以上の人に 2 割を求める仕組みがあるが、9 割超の人には最も軽い 1 割負担が適用されている。

2 割負担の対象者は介護サービス利用者の約 4%と、医療保険の約 20%と比べても少ない。

対象者を広げる議論は 22 年度から続いてきたが、高市早苗政権は 25 年末、結論を 26 年度に先送りした。先送りは実に 4 年連続である。

「能力に応じた負担」の考え方を徹底するには、所得だけでなく保有資産を勘案した負担のルールに改めることも必要だ。所得はわずかでも、株式などの資産を多く持つ高齢者は少なくないためだ。

高市政権は窓口負担割合など 75 歳以上の医療の負担に金融所得を反映するための法案を 26 年の通常国会に提出する方針だ。だが実現は改正法公布から 4、5 年後とかなり先になるうえ、あくまで所得ベースなので資産の評価額で勘案する仕組みにはならない。

資産勘案を実現するため、金融所得の反映を待たず、行政がマイナンバーで保有資産を確認できる仕組みづくりを急ぐべきだ。

健康寿命の延びを踏まえた改革も要る。入院医療の受診率は 70 歳以上の全年齢層で年々低下している。今の高齢者医療制度ができた 08 年度当時の水準と比べると、高齢者の健康状態は 5 歳ほど若返っているともいえるのだ。

高齢者の窓口負担が 70～74 歳で原則 2 割、75 歳以上で同 1 割に軽減されているのは医療ニーズの大きさが主な理由だが、健康状態が改善すれば前提は変わる。

デジタル化の加速急務

2 割負担、1 割負担の対象年齢を 5 歳ずつ引き上げたり、すべての年齢で 3 割負担とし、高額医療には月額上限の設定で対応したりする改革に踏み込むときだ。

高齢者をきちんと支える体制もつくらねばならない。今後は寝たきりなどで手厚いケアが要る高齢者が増える。転倒などで救急車の出動要請も激増しかねない。

人工知能 (AI) やセンサー、遠隔診療といったデジタル技術の進歩は目覚ましい。介護職員の処遇改善や外国人の活用など担い手確保の努力も必要だが、労働供給不足が強まる中で限界がある。デジタル化を進め、マンパワー依存から脱却して活路を得たい。

少子化対策もあきらめてはならない。若い世代を結婚や子育てから遠ざける壁は一日も早く壊すべきだ。「夫が働き、妻は家事・育児」という昭和の分業モデルに根ざした制度や慣習は廃止し、共働き共育てがしやすい職場や社会にしなければならない。

海図なき時代に必要なのは変える勇気だ。変化や摩擦を恐れて古いルールや慣習に固執しては人口危機には克 (か) てない。改革を断行し、高齢化で日本の後を追う国々の手本となるべきだ。

【2026 年 1 月 8 日 日本経済新聞電子版より抜粋】

問題

上の記事を読み、日本の「少子化」もしくは「高齢化」に関して、わたしたちはどうしていくべきかを、あなたの身近なできごとと関連づけた上で、800 字以内で述べなさい。

課題 B

トマトも「縁JOYドーナツ」 日南振徳高生ら規格外使い開発

県立日南振徳高校（日南市板敷）の生徒が、規格外で廃棄されるトマトをいかしたドーナツを開発した。商品化した市内の直売所が限定販売したところ、5 日間で計 300 個が完売した。7 月 4、5 日にも各 50 個を販売する。

ドーナツは商業マネジメント科の 3 年生「しんとくブランド班」が作った。これまで地元産のトマトやレタスにこだわった「日南サンド」などの商品を考案してきた。

今回、地域農業科と連携して校内の農場で栽培したトマトのうち廃棄されるものを活用した。障害がある人も手に取りやすいように、市内の県立日南くろしお支援学校の児童や保護者にアンケートを実施。児童が好きな焼き菓子の 1 位のドーナツと、苦手な野菜のうち保護者が食べさせたいトマトを合わせたという。

レシピは材料の分量や製造方法の試行錯誤を数十回重ねて完成させた。

支援学校の児童・生徒は試作品の評価や商品ラベルのデザイン、袋へのラベル貼り付けでも協力。この縁や、食べた人が笑顔になってほしいとの願いを込めて「縁JOYドーナツ」と名付けた。商品化は野菜や果物の直売所「おのはら商店」（日南市）が協力した。

5 月 23 日には直売所で初めて一般客向けに 1 個 180 円で売り出し、100 個を完売した。指導する教諭によると、生徒らは「試食したお客さんが『おいしい』と購入してくれてうれしかった」などと話していたという。

6 月 7 日までの土・日曜にも計 200 個を完売。おのはら商店の代表は「『トマトっぽくなくて食べやすい』とリピートで買ってくれたお客さんもいた。生徒が協力してくれたら来シーズンも販売したい」と手応えを感じている。

※人名等省略。

【2026 年 7 月 1 日 朝日新聞デジタルより引用】

問題

こうした取り組みがもたらす社会的意義について述べなさい。またあなたが住む地域で同様のことを行うとしたらどのような取り組みを行うか、アイデアを具体的に述べなさい。字数は 800 字以内で述べなさい。

課題 C

美輪明宏さんが死去…10歳で被爆、平和と不戦訴え「長崎のスター」に感謝と悼

む声

長崎市出身の歌手で俳優の美輪明宏さんが91歳で死去した。10歳の時に長崎で被爆した美輪さんは戦争や被爆の体験をしばしば語り、平和と不戦のメッセージを積極的に発信し続けた。28日、訃報に接した県内には悲しみが広がり、悼む声が次々に上がった。

美輪さんは2015年7月、同市の県美術館で長崎新聞社などが主催した「瀬戸内寂聴展」の関連イベントで来崎し、作家・僧侶の故瀬戸内寂聴さんと対談。出征して戦死した知人を長崎駅で見送った際、「死ぬなよ」と息子の足にすがった母が憲兵に突き飛ばされ、出血したエピソードを涙ながらに語った。

折しも自衛隊の任務を拡大した安全保障関連法が安倍政権下で成立する直前。「最後に見た母親の姿が血だらけなんて。それをまた政治の連中はやろうとしている。責任が重いのは賛成している選挙民。真剣に考えて」と語気を強めて訴えた。

長崎原爆被災者協議会の田中重光会長(85)は、かつて舞台運営に関わっていた際、まだ20代だった美輪さんに出演してもらったことがあるという。「芸能界ではっきり物を言う人は嫌われるが、社会に影響の大きい人が平和が大事だと言ったのは価値あること。貴重な人だった」と惜しんだ。

南島原市西有家町のいその産婦人科院長、磯野潔さん(72)は幼少時の美輪さんを知る母元子さん(故人)の話を書き留めており、今年3月に有家史談会が発行した郷土研究誌「嶽南風土記第33号」に寄稿した。

寄稿によると、元子さんの実家は長崎市丸山町にあった産婦人科医院。美輪さんの実家が経営していたカフェ「世界」が近所にあり、元子さんは美輪さんの母に頼まれ、小学生の美輪さんを合唱団の練習に連れて行っていた。美輪さんは「特別可愛(かわい)らしくもの静かな雰囲気の子」。練習前にレストラン「銀嶺」に寄ると、元子さんたちと一緒にコーヒーを飲みながらクラシック音楽のレコードに聴き入っていた。

磯野さんは「テレビで美輪さんの素晴らしい歌を聴くたびに母の話を思い出し、シンパシーを感じていた」としのんだ。

美輪さんは昨年、有家史談会会長の生駒輝彦さん(79)の依頼を受け、嶽南風土記第32号に直筆の「ヨイトマケの唄」の歌詞を寄稿していた。生駒さんは「地方の小さな郷土誌の依頼を快諾してくれた。尊敬の念に堪えない」と感謝した。

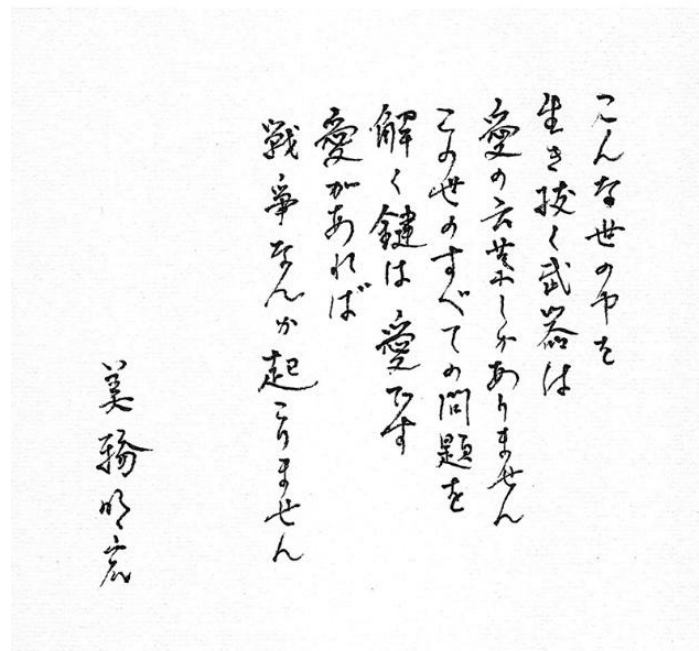
母方の遺骨が代々納骨されているという本行寺(長崎市西小島2丁目)の馬場泰宣住職(48)は長崎や福岡で舞台があるたび、お参りに来ていたと明かす。「長崎、日本のスターでありながら、年

下の自分にも腰の低い口調で優しく接してくれた。被爆者を含め、いろいろな人の心の支えになっていた」と話した。

【2026 年 6 月 29 日 長崎新聞より引用】

問題

美輪明宏さんの公式ホームページには訃報とともに生前の美輪明宏さんからのメッセージとして以下の文章が掲載された。



上の長崎新聞の記事を踏まえ、このメッセージを読んであなたが考えたことを 800 字以内で述べなさい。その際、メッセージ中の「こんな世の中」という言葉と「愛」という言葉に対するあなたの解釈を、あなたがこれまで目にしたことがあるニュースやあなた自身の体験と関連づけた上で明確にすること。

課題レポート記入用紙

※選択した課題に○をつけること

課題	A	B	C
----	---	---	---

希望学科	氏 名
------	-----

[illegible]

800字